

報 告

保育所看護職の活動に関する文献研究

上松 恵子¹⁾, 吉田 由美²⁾, 糸井志津乃²⁾
 古城 恵子³⁾, 渡邊 光代¹⁾

〔論文要旨〕

研究目的は、保育所看護職の活動に関する文献の内容を明らかにすることである。対象は、1983年1月～2013年12月までの126文献とした。活動内容として、【看護職の業務一般・役割・専門性】、【健康課題別活動】、【看護職および他職種・他機関との連携】、【職務内容別活動】、【家族との関係・家族への支援】の5カテゴリー、活動に関連する内容として、【看護職の配置・雇用形態】、【看護職の思い・悩み・充実感・不安】、【研修・教育】、【看護職への意識・要望】、【保育所保健関係団体の発足と経緯】の5カテゴリーが抽出された。看護職の業務全般の現状把握や役割の明確化、看護職配置の推進等、活動基盤の改善が主な課題になっていると考えられた。

Key words : 保育所, 看護職, 文献研究

I. はじめに

少子高齢化社会の中で女性の社会進出や核家族の増加等、子どもを取り巻く環境は大きく変化してきた。1996年以降は、男性片働き世帯よりも共働き世帯が上回り、共働きをしながら子育てをする世帯にとって保育所（保育園も含む、以後、保育所とする）は欠かせない重要な施設である。園児は最も成長・発達の著しい乳幼児期で、心身の健康管理は生涯に深い影響を与え、保育所という集団生活の中で保健活動は重要な意味を持っている。しかし、近年、子どもの感染症、慢性疾患、心の問題、育児不安、児童虐待等、子どもを取り巻く社会や家族に深く関わる子どもの健康問題が増加し、保育所で生活する子どもの健康管理は困難な状況におかれている¹⁻³⁾。また、子どもが保育所登園後に発生した体調不良・外傷への対応、乳児保育・低年齢児の保育等、子どもの健康管理のために保育所看

護職の配置の必要性^{4,5)}が報告されていた。

保育所看護職配置の基準については、1969年に厚生省児童家庭局長の通達が最初であった。内容は「保母のほか、保健婦または看護婦1人を置き、保母、これらの職員の定数は、保母および保健婦または看護婦1人を含めて乳児3人につき1人であること」⁶⁾であった。その後、1977年の乳児保育指定保育所制度により、0歳児を9人以上保育する場合、看護師または保健師の配置が明記された。しかし、1998年の新保育所保育指針では乳児保育がすべての保育所で実施できるようになり、それに伴って保健師・看護師の配置基準は記載されなくなった。一方、2009年4月改定の「保育所保育指針」の「第五章健康及び安全」では「看護師等が配置されている場合には、専門性を生かした対応を図ること」と看護職の専門的な役割が求められた。同年、日本保育協会が行った保育所看護師の実態調査（全国認可保育施設2,289の保育所長、保育士、看護師等

A Literature Review on the Activities Related to Nursing Jobs in Nursery Schools

Keiko UEMATSU, Yumi YOSHIDA, Shizuno ITOI, Keiko KOJO, Mitsuyo WATANABE

[2658]

受付 14. 8. 4

採用 15. 4. 9

1) 目白大学看護学部（研究職）

2) 目白大学大学院看護学研究科（研究職）

3) 豊島区立南長崎第一保育園（看護師）

別刷請求先：上松恵子 目白大学看護学部看護学科 〒339-8501 埼玉県さいたま市岩槻区浮谷320

Tel : 048-797-2368 Fax : 048-797-4300

の配置がある場合は看護師等を対象)によると, 保育所の看護職の配置割合は29.7%という結果が出されており, 2000年の調査での17.7%と比べると看護職の配置率は向上してきている⁷⁾。

さまざまな健康課題を抱える乳幼児期の集団生活の中で, 看護職としての専門性を発揮し, 子どもの健康および安全に取り組んでいくことは重要なことである。しかし, 保育所看護職の活動についての文献レビューはまだ行われていなかった。そこで, 本研究では, わが国の保育所看護職の活動に関する文献の内容を明らかにすることを目的とした。

II. 研究方法

1. 対象

医学中央雑誌 Web.Ver.5を用いて1983年1月～2013年12月に発表されたわが国の文献の中から, 「保育園 and 看護」, 「保育所 and 看護」をキーワードとして2014年5月18日に文献を検索した。文献は実状をできるだけ把握するために, 該当した944件(原著, 解説, 会議録, 座談会)すべてを対象とした。その文献のうち, 保育所看護職の活動に関する記述が含まれる126件を文献検討の対象とした。

2. 分析方法

対象文献を精読し, 文献毎に要約を作成し, 保育所看護職の活動に関する内容のキーワードをコードとした。そして, コードの類似性に基づき分類・命名しカテゴリー化した。要約内にコードが複数ある場合は各々計上した。対象文献の選定, 要約作成, コード・分類・命名に関しては研究者間の意見が一致するまで文献内容と照合しながら検討し決定した。

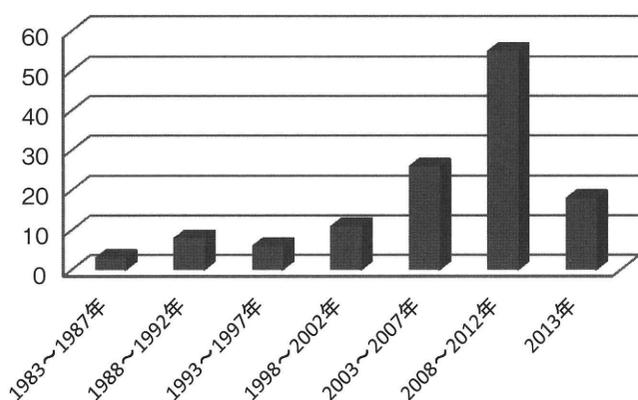


図 文献件数の年次推移

5年間ごとに集計, ただし2013年は1年間の文献数

III. 結果

1. 発表年次別文献数推移 (図)

文献126件の発表年次は1983～2002年までは平均1.4件であったが, 2003～2007年は平均5.2件, 2008～2012年では平均11.0件と急激に増加していた。

2. 対象文献の概要 (表1)

対象文献の種類は会議録が64件(50.8%)と最も多く, 次いで原著42件(33.3%), 解説19件(15.1%), 座談会1件(0.8%)であった。研究の方法は調査研究が67件(53.2%)と最も多く, 次いで現状報告35件(27.8%), 質的研究18件(14.3%), その他6件(4.8%)であった。研究対象の規模は, 区・市・都道府県規模が57件(45.2%)と最も多く, 次いで保育所規模28件(22.2%), 全国規模18件(14.3%), その他23件(18.3%)で行われていた。掲載誌は「保育と保健」42件(33.3%)が最も多く, 次いで「小児保健研究」28件(22.2%),

表1 対象文献の概要

	n = 126	
	数	%
論文の種類		
会議録	64	50.8
原著	42	33.3
解説	19	15.1
座談会	1	0.8
研究方法		
量的研究(調査)	67	53.2
現状報告(事例)	35	27.8
質的研究	18	14.3
その他	6	4.8
調査研究規模		
区・市・都道府県	57	45.2
保育所	28	22.2
全国	18	14.3
その他	23	18.3
掲載誌		
保育と保健	42	33.3
小児保健研究	28	22.2
大学紀要	14	11.1
その他	42	33.3
筆頭者所属		
大学等教育機関	52	41.3
保育所・保育園	31	24.6
保育所保健関係団体	15	11.9
医療機関	13	10.3
その他	15	11.9

大学紀要14件 (11.1%), その他42件 (33.3%)であった。筆頭研究者の所属機関別では大学等教育機関52件 (41.3%), 保育所31件 (24.6%) で全体の約7割を占めていた。次いで保育所保健関係団体15件 (11.9%), 医療機関13件 (10.3%), その他15件 (11.9%)であった。

筆頭研究者の所属機関別に研究方法を見ると大学等教育機関は52件中38件 (73.1%) が調査研究であり, 30件が区・市・都道府県規模であった。保育所は31件中19件 (61.3%) が現状報告であり, 16件が保育所規模であった。保育所保健関係団体は15件中7件 (46.7%) が調査研究であり全国規模であった。医療機関は13件中4件が質的研究であった。

3. 保育所看護職の活動に関する文献内容 (表2)

保育所看護職の活動に関する内容については, 233のコードが抽出され, 45サブカテゴリー, 10カテゴリーが生成された。10カテゴリーは, 活動自体を扱っている活動内容5カテゴリーと, 活動に関連する内容5カテゴリーの2つに大別できた。以下, 活動内容と活動に関連する内容別にその概要と代表的な文献例を記していく。なお, 記述にあたっては, 各カテゴリーを【】, サブカテゴリーを< >, コードを< >で表す。

1) 活動内容

(1) 【看護職の業務一般・役割・専門性】

活動内容の中で60件 (37.0%) と一番コード数が多かった。看護職が保育所で担っている業務を総体的に扱ったものや看護職の役割・専門性に関する内容である。3サブカテゴリーで構成され, <看護職の業務一般>, <看護職の役割>, <看護の専門性>であった。

<看護職の業務一般>のコードは, <看護職の実践内容>, <看護職の業務内容全般>であった。例えば, 看護職の担っている業務基準が明確でなく, 保健活動の中で業務を構築し実行してきている現状について^{2,8,9)}報告されていた。また, 全国保育園保健師看護師連絡会からは, 2005年に『保育所保健業務の活動領域』として, 保健・安全管理11項目, 地域への子育て支援4項目の業務内容を構築したこと¹⁰⁾が報告されていた。

<看護職の役割>のコードは, <看護職の役割>, <保健職への期待>, <担うべき業務>, <健康支援への役割>であった。例えば, 看護職は子どもの身体的・精神的な健康管理において, 保育現場で重要な役割を果たしている等^{11~13)}が報告されていた。また, 看

護職に今後期待される役割としては, 子どもと家族に対する健康教育・保健指導, 救急時の対応やさまざまな健康問題を抱える子どもたちに対応できる専門的な看護援助, 異常の早期発見・早期治療への連携と多岐にわたっている等^{2,3,14)}が報告されていた。

<看護の専門性>のコードは, <看護職の専門性>, <看護職が専門的な根拠を基に行う保健活動>であった。例えば, 看護職が専門的な根拠を基に行う保健活動としては, 疾病の早期発見, 子どもの状態を判断する, 疾病の援助, 子育て支援, 自己健康管理についての指導, 安全管理, 職員への教育・指導の7つが¹⁵⁾報告されていた。また, 看護職でありながら, 保育業務を優先せざるを得ない職場環境で専門性を発揮できず不満を持っている¹⁶⁾。さらに, 看護職は看護師としての専門性に加えて, 保育の専門知識や技術の習得を必要とされているといった内容¹⁷⁾が報告されていた。

(2) 【健康課題別活動】

健康課題別の業務に関する内容である。10サブカテゴリーで構成され, <感染症>, <慢性疾患・難病>, <病児・病後児保育>, <けが・体調不良・疾病罹患>, <低出生体重児>, <気になる子ども>, <発熱>, <事故>, <耳鼻科疾患>, <医療的ケア>であった。

<感染症>のコードは, <感染症対策>, <予防接種の接種状況と罹患状況>, <新型インフルエンザの発生状況と対応>, <登園基準>, <ぎょう虫感染>, <予防接種>であった。例えば, 保育所での感染症の現状としては, インフルエンザをはじめ, ノロウイルスなどの感染性胃腸炎, RSウイルス, 水痘, 流行性耳下腺炎, さまざまな感染症が発症している。園児は予防接種がまだ済まない年齢でもあり衛生観念も不十分である。乳幼児の免疫力および体力は弱く, 感染症に罹患すると重症化しやすい状況であるため感染症対策が重要であるが対応が困難であるといった内容¹⁸⁾が報告されていた。

<慢性疾患・難病>のコードは, <アレルギー>, <保育所での導尿>, <慢性疾患の子ども>, <慢性疾患児の保育実態>, <排泄の自立>, <人工呼吸器>であった。例えば, 幼児の場合, 自分自身で療養行動を実施することは困難なことが多いので, 慢性疾患をもつ子どもに対する保育・保健活動・保護者への支援や困難の現状等^{1,19)}が報告されていた。また, 看護

表2 保育所看護職の活動に関する文献内容

カテゴリー	コード述べ数 (%)	サブカテゴリー	コード述べ数	コード	コード述べ数	
活動内容	60 (37.0%)	看護職の業務一般	37	看護職の実践内容 看護職の業務内容全般	22 15	
		看護職の役割	18	看護職の役割 保健職への期待 担うべき業務 健康支援への役割	12 3 2 1	
		看護の専門性	5	看護職の専門性 看護職が専門的な根拠を基に行う保健活動	4 1	
		健康課題別活動	感染症	12	感染症対策 予防接種の接種状況と罹患状況 新型インフルエンザの発生状況と対応 登園基準 ぎょう虫感染 予防接種	6 2 1 1 1 1
			慢性疾患・難病	10	アレルギー 保育所での導尿 慢性疾患の子ども 慢性疾患児の保育実態 排泄の自立 人工呼吸器	3 2 2 1 1 1
			病児・病後児保育	8	病児保育 病後児保育 保育士の病児保育 病後児保育室	4 2 1 1
			けが・体調不良・疾病罹患	3	けがや体調不良児 疾病罹患状況	2 1
		43 (26.5%)	低出生体重児	2	低出生体重児の保育困難	2
			気になる子ども	2	気になる子ども	2
			発熱	2	発熱の実態 発熱時の対応	1 1
事故	2		事故の実態 事故防止と危機管理	1 1		
耳鼻科疾患	1		反復性中耳炎の予防	1		
医療的ケア	1		医療的ケア	1		
看護職および他職種・他機関との連携	看護職・保育士の連携		12	保育士との連携 保育士と看護師の連携の必要性 看護師と保育士の協働	8 2 2	
	保健所・医療・福祉機関との連携		6	医療機関との連携 嘱託医との連携・職員間の連携 保母等の他職種および保健所や医師との関わり 福祉と保健医療との連携の必要性	2 2 1 1	
	保育所外からの看護支援		5	小児科クリニックアレルギーエデュケーター(看護師) 耳鼻咽喉科診療所看護師 訪問看護ステーション 看護系大学教員	2 1 1 1	
	地域の看護職との連携		4	自治体と医師会訪問看護ステーション 医師会訪問看護ステーション 看護職間(病院、保健福祉センター、保育所)の連携効果 地域保健と保育の連携の必要性	1 1 1 1	
	保育所職員間の連携	3	保育所職員間の情報の共有方法 職員間の連携 保育士等の他職種および、保健所や医師との関わり	1 1 1		
	与薬	5	与薬 与薬の実態	4 4		
162 (99.5%)	23 (14.2%)	健康教育	5	健康教育の実態 健康教育(食)	4 1	
		歯科保健	3	歯科保健活動 歯磨き指導 歯科健診	1 1 1	
		保健指導	2	集団保健指導 看護職が保健指導	1 1	
		マニュアル	2	看護業務の内容(マニュアル) 保育園医療職マニュアル	1 1	
		健康観察	1	健康観察	1	
		予防活動	1	予防活動の特徴	1	
		定期健康診断	1	定期健康診断の実施状況	1	
		保健室	1	保健室	1	
		安全管理	1	安全管理	1	
		環境整備	1	環境整備	1	
家族との関係・家族への支援	4	家族支援	4			
	6 (3.7%)	保護者との関係	2	保護者との関係 保護者との信頼関係の構築	1 1	
小計 162 (100%)						
活動に関連する内容	71 (30.5%)	看護職の配置	40	配置の現状 配置の有無の差 配置の必要性 配置の歴史 配置の利点	24 10 3 2 1	
		看護職の雇用(勤務)形態	8	看護職の雇用形態 勤務状態 保健職の業務形態	2 4 2	
		困難感	4	困難感	4	
		職務満足・不安感	4	職務満足 充実感と不安	3 1	
		現状意識	2	健康支援にどのような「思い」 現状に対する意識	1 1	
		悩み	2	悩み	2	
		自信	1	保育保健活動の自信	1	
		研修・教育	3	研修、教育	3	
		教育の在り方	1	教育の在り方	1	
		学習ニーズ	1	深めたい知識	1	
看護職への意識・要望	5 (7.1%)	保護者からの看護職への意識・要望	2	保育所看護職への要望 保健師活躍への期待	1 1	
保育所保健関係団体の発足と経緯	3 (4.2%)	専門家からの要望	1	保育所看護職に対する意識	1	
	2 (2.8%)	関係団体の発足	1	発足の経緯	1	
	1	関係団体の歴史	1	振り返り	1	
小計 71 (100.1%)						

※ 小数第2位以下を四捨五入

職が食物アレルギーをもつ子どもや保護者に対して行っている取り組みの現状等²⁰⁾が報告されていた。

《病児・病後児保育》のコードは、〈病児保育〉、〈保育士の病児保育〉、〈病後児保育〉、〈病後児保育室〉であった。例えば、看護職が行う病児保育の現状と病児保育における看護職の役割や看護職と保育士の関わり等^{21, 22)}が報告されていた。

(3) 【看護職および他職種・他機関との連携】

看護職と他職種や他機関との連携に関する内容である。5サブカテゴリーで構成され、《看護職・保育士の連携》、《保健所・医療・福祉機関との連携》、《保育所外からの看護支援》、《地域の看護職との連携》、《保育所職員間の連携》であった。

《看護師・保育士の連携》のコードは、〈保育士との連携〉、〈保育士と看護師の連携の必要性〉、〈看護師と保育士の協働〉であった。

《保健所・医療・福祉機関との連携》のコードは、〈医療機関との連携〉、〈嘱託医との連携・職員間の連携〉、〈保母（現保育士）等の他職種および保健所や医師との関わり〉、〈福祉と保健医療との連携の必要性〉であった。

《保育所外からの看護支援》のコードは、〈小児科クリニックアレルギーエデュケーター（看護師）〉、〈耳鼻咽喉科診療所看護師〉、〈訪問看護ステーション〉、〈看護系大学教員〉であった。例えば、小児科アレルギー科クリニックの医師や小児アレルギーエデュケーター（看護師）が保育所に出向き保育士を対象にアレルギー疾患についての「お話し会」を行っている等^{23, 24)}が報告されていた。

《地域の看護職との連携》のコードは、〈自治体と医師会訪問看護ステーション〉、〈医師会訪問看護ステーション〉、〈看護職間（病院、保健福祉センター、保育所）の連携効果〉、〈地域保健と保育の連携の必要性〉であった。

《保育所職員間の連携》のコードは、〈保育所職員間の情報の共有方法〉、〈職員間の連携〉、〈保育士等の他職種および、保健所や医師との関わり〉であった。

(4) 【職務内容別活動】

職務内容別の業務に関する内容である。11サブカテゴリーで構成され、《与薬》、《健康教育》、《歯科保健》、《保健指導》、《マニュアル》、《健康観察》、《予防活動》、《定期健康診断》、《保健室》、《安全管理》、《環境整備》であった。

(5) 【家族との関係・家族への支援】

看護職による家族支援に関する内容である。2サブカテゴリーで構成され、《家族支援》、《保護者との関係》であった。

2) 活動に関連する内容

(1) 【看護職の配置・雇用形態】

活動に関連する内容の中で48件（67.6%）と一番多く、全体で二番目に多いコード数であった。看護職の配置状況、雇用形態に関する内容である。2サブカテゴリーで構成され、《看護職の配置》、《看護職の雇用（勤務）形態》であった。

《看護職の配置》のコードは、〈配置の現状〉、〈配置の有無の差〉、〈配置の必要性〉、〈配置の歴史〉、〈配置の利点〉であった。〈配置の現状〉では例えば、看護職の配置のある保育所はまだ少なく、保育士に対する調査結果では、専門職としての看護職の配置を望む意見とともに、人員配置の余裕のなさや配置の困難さ等^{8, 9, 12, 25)}が報告されていた。〈配置の有無の差〉では、例えば、東京23区の認可保育所を対象に調査した結果では、看護職配置の保育所の方が、保健活動がより充実しており、看護職がいる利点を実感している²⁾等の報告があった。

《看護職の雇用（勤務）形態》のコードは、〈勤務状態〉、〈看護職の雇用形態〉、〈保健職の業務形態〉であった。例えば、某市では看護職のほぼ半数は保育士定員配置であり専任配置であっても7割強が臨時・パート職員である⁹⁾。また、保健教育をするための時間が取れない、保育を抜けて保健活動をすることが困難である等^{9, 26)}が報告されていた。

(2) 【看護職の思い・悩み・充実感・不安】

看護職の活動上の思いや悩み、充実感や不安など感情的な側面に関する内容である。5サブカテゴリーで構成され、《困難感》、《職務満足・不安感》、《現状意識》、《悩み》、《自信》であった。

(3) 【研修・教育】

看護職の活動を支える教育や研修の在り方に関する内容である。3サブカテゴリーで構成され《研修・教育》、《教育の在り方》、《学習ニーズ》であった。

(4) 【看護職への意識・要望】

看護職への意識・要望・期待に関する内容である。2サブカテゴリーで構成され《保護者からの看護職への意識・要望》、《専門家からの要望》であった。

(5) 【保育所保健関係団体の発足と経緯】

保育所保健関係団体の発足と経緯に関する内容である。2サブカテゴリーで構成され《関係団体の発足》、《関係団体の歴史》であった。

IV. 考 察

1. 文献の動向

今回の文献件数と発表年次別推移では、1983年から始まり平均1.4件であったが、2003年頃から徐々に増加し、2008～2012年では平均11.0件と急増していた。筆頭研究者は大学等教育機関が41.3%と最も多く、看護系大学等の教育機関が保育所実習を行うようになったことや、2009年の保育所保育指針で厚生労働省の告示として、看護職の果たす役割が明確に盛り込まれたことが影響していると推測できる。また、文献の概要では、区・市・都道府県規模の調査研究の会議録が半数を占めていた。これは、保育所看護職がどのような活動をしているのか実態を明らかにしようと研究に取り組みだした状況だと考える。

2. 活動内容

1) 保育所看護職の業務の現状把握

活動内容の中で【看護職の業務一般・役割・専門性】は、最も多いコード数のカテゴリーであった。2005年、全国保育園保健師看護師連絡会から「保育所保健業務の活動領域」として、保健・安全管理11項目、地域への子育て支援4項目の業務内容が報告されたことにより、看護職の業務内容の項目が明らかになってきていた²⁷⁾。しかし、本研究では、看護職の業務全般の現状を把握し、保育所看護職の位置づけや専門職としての役割を明確にすることが主な内容となっていた。これは、各自治体により看護職の配置状況や役割が異なり、業務としては何をすればよいのか混乱している状況であったと推測できる。また、保健活動に関しては、看護職の専門性を感じていながら発揮できない現状が主な内容となっていた。そのため、上述した2009年の保育所保育指針に示されているように、看護職の専門性を発揮できるように看護職の業務内容を研究することは、園児の健康および安全の質の向上につながると考える。

2) 看護職の健康課題別活動の推進

厚生労働省の感染症対策ガイドライン²⁸⁾によると保育所で流行する感染症は、不顕性感染例や医療機関受

診にまで至らない軽症例もあることを理解したうえで、感染症対策に取り組んでいくことが重要であるとされている。それは園児に限らず職員、保護者にも当てはまることである。本研究結果では、看護職が関わる多様な感染症対策が必要であるが、対応の困難さが明らかにされた。保育所という乳幼児の集団生活施設では感染症対策を最優先で検討していくことが重要であると考えられる。

また、保育所ではアレルギー疾患を有する子どもが年々増加傾向にある。誤食の事故は、平成20年度1年間に29%の保育所で発生しており、食物アレルギーの10%程度がアナフィラキシーショックを引き起こす危険性があり、乳幼児の生命を守る観点から慎重な対応が急がれている²⁹⁾。本研究結果でも慢性疾患をもつ幼児の集団生活における対応・配慮などの支援が必要である現状や、小児科クリニックから医師や看護師が保育所に出向いて「アレルギーのお話会」を行っている等の報告もされていた。このように、近隣の保健・医療機関や行政との情報の共有や連携を行い子どもの健康課題に取り組んでいくことが大切である。しかし、種々のガイドラインを基に取り組んでいくことは、医療的な判断と対応が求められるので、保育士だけでは困難な状況である。そのため、看護職が専門性を十分に発揮し子どもの健康課題に取り組むことは重要であると考えられる。

1999年の新エンゼルプランでは、病児保育の対象施設は医療機関併設型、乳児院型、単独型に加えて、保育所型、派遣型が認められた。さらに保育所等の児童福祉施設や医療機関が開設する場合には、施設設備費補助の道も開かれるようになった。本研究でも病児・病後児保育の現状と質の改善について研究が行われていることが明らかにされた。保育所に通う子どもは感染症を含むさまざまな病気に罹患しやすい年齢であり、今後も病児・病後児保育の需要は増えてくることが予想される。看護職が専門性を発揮し、健康課題別に子どもの個別性に合った健康管理が十分に行えるように保護者との信頼関係を構築し、家族支援に取り組むことは重要な課題であると考えられる。

3. 活動に関連する内容

活動に関連する内容の中で、【看護職の配置・雇用形態】は最も多いコード数のカテゴリーであるため高い関心がうかがえる。日本保育園保健協議会は保育所で

保育保健を展開するためには、まず核となる常勤の看護職を確保し、保健室を整備し、嘱託医とは業務内容を明確にした契約を結び、組織的にまた計画的に運用することを提言している³⁰⁾。さらに、全国保育園保健師看護師連絡会は、保健活動のすべてにおいて、看護職の役割が必要であると提言している³¹⁾。本研究でも、【看護職の配置・雇用形態】に関しては、看護職の配置の現状把握が多く、実態を知る段階であると考え。また、看護職配置の有無の差を検討することで、看護職配置の意義を明らかにし、配置の推進の根拠を求めて研究されていたと推察された。看護職が配置されることで、子ども一人一人の健康状態、発育および発達状態を把握し、子どもの心身の健康増進と健やかな生活の確立を支援することがより充実できると考える。そして、保育所での疾病発生の早期発見・早期対策や慢性疾患を抱えた子どもへの対応を速やかに行うことが可能となる。しかし、看護職が配置されるだけでなく、その勤務形態の在り方や保育所での位置づけに関しても検討が必要である。以上により、看護職の配置の推進と改善は重要であると考え。

V. 結 論

本研究の目的は、わが国の保育所看護職の活動に関する文献内容を明らかにすることである。対象126文献から、10カテゴリーが抽出され、活動自体を扱っている活動内容と活動に関する内容の2つに大別された。活動内容は、【看護職の業務一般・役割・専門性】、【健康課題別活動】、【看護職および他職種・他機関との連携】、【職務内容別活動】、【家族との関係・家族への支援】の5カテゴリー、活動に関連する内容は、【看護職の配置・雇用形態】、【看護職の思い・悩み・充実感・不安】、【研修・教育】、【看護職への意識・要望】、【保育所保健関係団体の発足と経緯】の5カテゴリーであった。看護職の業務全般の現状把握や役割の明確化、看護職配置の推進等、活動基盤の改善が主な課題になっていると考えられた。

なお、本研究の一部は第18回日本保育園保健学会(2012, 東京)で報告した。

利益相反に関する開示事項はありません。

文 献

- 1) 出野慶子, 大木伸子, 小泉 麗, 他. 慢性疾患をもつ幼児の集団生活における支援—保育園勤務の看護師への質問紙調査より—. 小児保健研究 2007; 66: 346-351.
- 2) 村上慶子, 西垣佳織, 上別府圭子. 東京都23区内の保育所における保健活動と看護職の役割に関する実態調査. 小児保健研究 2009; 68: 387-394.
- 3) 稲毛映子. 福島県内の保育施設における看護職の現状に関する調査 期待される役割に関する一考察. 福島県立医科大学看護学部紀要 2007; 9: 25-40.
- 4) 木村留美子, 藤城富美子, 宮崎博子, 他. 保育所看護者に関する研究. 保育と保健 2010; 16: 139.
- 5) 荒木田美香子, 佐藤 潤, 臺 有桂, 他. 幼児を持つ母親の幼稚園および保育所の選択条件に関する調査—看護師・養護教諭の配置の影響—. 小児保健研究 2010; 69: 525-533.
- 6) 全国保育団体連絡会・保育研究所編. 保育白書. ひとなる書房, 2006: 183.
- 7) 日本保育協会. 保育所環境整備に関する調査研究報告書 保育所の人的環境としての看護師等の配置 平成21年度. 2010. 3.
- 8) 須藤佐知子, 鈴木久美. 東京都私立保育所看護職の業務実態調査. 保育と保健 2008; 14: 50-56.
- 9) 沼野みえ子. 子どもの保健に関して保育者に求められること 新潟市内保育所・幼稚園の実態調査から. 人間生活学研究 2011; 2: 23-33.
- 10) 藤城富美子. 育児の環境整備 保育園と幼稚園の一元化 認定子ども園を考える 保育園看護職の健康支援. 小児保健研究 2008; 67: 236-241.
- 11) 野口純子. 看護職の子育て支援に関する研究 香川県における保育との連携に関する調査. 香川県立医療短期大学紀要 2002; 3: 157-165.
- 12) 梶 美保, 小池はるか, 野村豊樹, 他. 保育所と園医との連携の実態と課題. 保育と保健 2013; 19: 29-34.
- 13) 片岡亜沙美, 矢野智恵, 山崎美恵子. 保育士の保育所看護職者への認識と期待する役割. 高知学園短期大学紀要 2012; 42: 55-66.
- 14) 荒木暁子, 遠藤巴子, 羽室俊子, 他. 岩手県の保育所保健の実態と看護職の役割. 岩手県立大学看護学部紀要 2003; 5: 47-55.
- 15) 佐藤親可. 保育所の保健活動における看護職の専門性の追求. 神奈川県立保健福祉大学実践教育センター看護教育研究集録 2007; 32: 231-238.

1) 出野慶子, 大木伸子, 小泉 麗, 他. 慢性疾患をも

- 16) 湯目礼子. 保育所における看護職の活動の実態と役割意識 神奈川県下のアンケート調査から. 神奈川県立看護教育大学校看護教育研究集録 1998; 23: 448-455.
- 17) 北澤清美. 保育所での保育士と看護師との連携 相互の専門性の向上と「保育保健」の確立をめざして. 小児看護 2008; 13: 1245-1254.
- 18) 藤城富美子. ワクチンで防ぐ子どもの病気 保育園の子どもたちと職員を感染症から守るために～感染症の発生状況とワクチンの接種率～. 小児保健研究 2013; 72: 243-245.
- 19) 田中美樹. 保育所における慢性疾患をもつ子どもへの支援. 保育と保健 2013; 19: 68-72.
- 20) 田中美樹. 保育所における食物アレルギーに対する看護職の取り組み. 保育と保健 2013; 19: 45-48.
- 21) 深田美香, 南前恵子, 笠置綱清. 育児支援としての病児保育の在り方と看護の役割に関する検討 松江市における調査結果の分析より. 米子医学雑誌 2001; 52: 183-195.
- 22) 田邊ますみ. 病児保育所における看護と保育の関わり. 小児保健研究 2001; 60: 252.
- 23) 森川みき. 小児アレルギーエデュケーターの役割と期待 クリニック医師の立場から. 日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会誌 2013; 11: 233-236.
- 24) 高橋育子. 保育園でのアレルギーお話し会 地域の保育園との連携を目指して. 小児看護 2013; 36: 368-373.
- 25) 矢野智恵, 片岡亜沙美, 森澤徹男, 他. 保育士の「健康及び安全」への取り組み状況への認識に関する研究. 高知学園短期大学紀要 2012; 42: 43-54.
- 26) 脇坂幸子, 神澤絢子, 塩原智子, 他. 保育所に勤務する看護職の業務の現状と役割受容度の検討. 日本看護学会論文集: 小児看護 2011; 41: 108-111.
- 27) 小野寺芳子. 保育所での予防接種対応 保育所看護職の役割. 小児看護 2013; 36: 494-500.
- 28) 厚生労働省 HP. 保育所における感染症対策ガイドライン (2012年改訂版). http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kodomo/kodomo_kosodate/hoiku/index.html (アクセス日2015年3月3日)
- 29) 厚生労働省 HP. 保育所におけるアレルギー対応ガイドライン. 2011. http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kodomo/kodomo_kosodate/hoiku/index.html (アクセス日2015年3月3日)
- 30) 日本保育園保健協議会. 第14回「保育所保育指針」改定に関する検討会の意見要旨. <http://www.mhlw.go.jp/shingi/2007/08/dl/s0823-6g.pdf> (アクセス日2015年3月3日)
- 31) 全国保育園保健師看護師連絡会. 第14回「保育所保育指針」改定に関する検討会の意見要旨. <http://www.mhlw.go.jp/shingi/2007/08/s0823-6.html>, 2014 (アクセス日2015年3月3日)

[Summary]

The objective of this study was to clarify the contents of literature on the activities related to nursing jobs in nursery schools. We studied 126 reports published from January in 1983 through December in 2013 and the following five categories directly related to the contents of nursing were extracted; [general duties and roles of nursing jobs as well as expertise in nursing], [activities in accordance with health subjects], [cooperation with the nursing profession as well as other occupations and institutions], [activities in accordance with job duties] and [relationships with, and support for, families]. On the other hand, the following five categories for the circumstances surrounding the nursing activities were extracted; [nursing job placement and type of employment], [feelings, worries, sense of fulfillment and anxieties about nursing jobs], [training and education], [awareness of the nursing profession and demand for the job] and [establishment and its background in healthcare related organizations for nursery schools]. In conclusion, it was verified that the improvement of the foundation for the activities related to nursing jobs, including the understanding of the current situation for their overall duties, a clarification of the roles and the promotion of job placement, were the primary subjects found in the literature.

[Key words]

nursery school, nursing job, literature review

資料 対象文献一覧

文献	研究者	タイトル	文献名	発表年	巻・号	ページ
1	阿久澤 智恵子, 青柳 千春, 佐光 恵子, 他	群馬県における保育所看護職者の保育保健活動の自信に対する自己評価	群馬県小児保健会報	2013	71号	Page32-33
2	市川 理恵子, 中野 正孝	保育所で働く看護職の職務満足及び関連する要因について	日本健康医学学会雑誌	2013	22巻3号	Page182-183
3	田中 美樹	保育所における慢性疾患をもつ子どもへの支援	保育と保健	2013	19巻2号	Page68-72
4	山内 美奈子, 高野 政子	保育所(園)における発熱児と保護者に対する支援の実態	日本看護学会論文集:小児看護	2013	43号	Page98-101
5	堀 美保, 小池 はるか, 野村 豊樹, 梅本 正和, 堀 浩樹	保育所と園医との連携の実態と課題	保育と保健	2013	19巻1号	Page29-34
6	藤城 富美子	ワクチンで防ぐ子どもの病気を保育園の子どもたちと職員を感染症から守るために 感染症の発生状況とワクチンの接種率	小児保健研究	2013	72巻2号	Page243-245
7	小野寺 芳子	【予防接種最前線 スケジュール管理につなげよう】 看護の実際 保育所での予防接種対応 保育所看護職の役割	小児看護	2013	36巻4号	Page494-500
8	阿久澤 智恵子, 佐光 恵子, 青柳 千春, 他	保育所看護職者が認識している保育保健活動における役割	日本小児看護学会誌	2013	22巻1号	Page48-55
9	阿久澤 智恵子, 佐光 恵子, 青柳 千春, 他	保育所看護職者が認識している保育保健活動における困難感	日本小児看護学会誌	2013	22巻1号	Page56-63
10	大西 昭子, 矢野 智恵, 片岡 亜沙美, 他	保育士が捉えた「健康及び安全」への取り組み状況と課題に関する検討 保育所施設長に焦点をあてて	高知学園短期大学紀要	2013	43号	Page17-30
11	森川 みき	小児アレルギーエデュケーターの役割と期待 クリニック入りの立場から	日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会誌	2013	11巻3号	Page233-236
12	田中 美樹	保育所における食物アレルギーに対する看護職の取り組み	保育と保健	2013	19巻1号	Page45-48
13	高橋 育子	小児アレルギーエデュケーターの活動(第10回) 保育園でのアレルギーお話し会 地域の保育園との連携を目指して	小児看護	2013	36巻3号	Page368-373
14	羽室 俊子, 梶 咲子, 片瀬 智子, 他	タイムスタディによる保育園看護職の業務現状調査	保育と保健	2013	19巻1号	Page90
15	佐野 芳美, 近藤 裕子, 木村 佳子, 他	保育園での看護職者の必要性について 巡回訪問時の業務内容4年間分を分析して(経過報告)	保育と保健	2013	19巻1号	Page88-89
16	上松 恵子, 吉田 由美, 糸井 志津乃, 他	保育所看護職者の活動の課題に関する文献研究	保育と保健	2013	19巻1号	Page88
17	有益 修, 遠藤 邦恵, 藤城 富美子, 他	保育園における看護職の役割	保育と保健	2013	19巻1号	Page11-16
18	住吉 智子	A市における保育士が抱く言葉の困難さの実態調査 保育園看護職に期待する役割を中心に	保育と保健	2012	18巻2号	Page57-60
19	藤城 富美子	ワクチンで防ぐ子どもの病気を保育園の子どもたちと職員を感染症から守るために 感染症の発生状況とワクチンの接種率	小児保健研究講演集	2012	71巻	Page86
20	古城 恵子, 佐川 八千代, 梅田 ちはる, 他	受診を要するけがの一考察 ひっかき傷の分析から見えてくること	保育と保健	2012	18巻2号	Page68-76
21	阿久澤 智恵子, 青柳 千春, 佐光 恵子, 他	群馬県における保育所看護職者の保育保健活動の現状と課題 家族支援を推進するために	群馬県小児保健会報	2012	70号	Page18-19
22	伊藤 暁, 廣瀬 幸美, 永田 真弓, 他	保育所における低出生体重児の保育上の困難と対応 看護職による支援の検討	日本新生児看護学会誌	2012	18巻2号	Page27-33
23	村松 妙子, 宮城 烏 恭子, 坪見 利香, 他	保育園・幼稚園に勤務する看護職者の発達障害児に対する理解と対応の現状	日本看護学会教育学会誌	2012	22巻学術集 講演集	Page286
24	市川 理恵子, 中野 正孝	保育所で働く看護職の職務満足について(第2報) 保育所で働く看護職の職務満足に関連する要因について	小児保健研究	2012	71巻講演集	Page98
25	市川 理恵子, 中野 正孝	保育所で働く看護職の職務満足について(第1報)	小児保健研究	2012	71巻講演集	Page98
26	阿久澤 智恵子, 青柳 千春, 金泉 志保美, 他	保育所看護職者が行う保育保健活動の現状と課題 家族支援のあり方の検討	小児保健研究	2012	71巻講演集	Page96
27	片岡 亜沙美, 矢野 智恵, 山崎 美恵子	保育士の保育所看護職者への認識と期待する役割	高知学園短期大学紀要	2012	42号	Page55-66
28	矢野 智恵, 片岡 亜沙美, 森澤 徹男, 他	保育士の「健康及び安全」への取り組み状況への認識に関する研究	高知学園短期大学紀要	2012	42号	Page43-54
29	松原 由季, 村山 志保, 並木 由美江, 他	保育所感染症対策における看護職の専門性と認識に関する課題	保育と保健	2012	18巻1号	Page85-86
30	住吉 智子	A市における保育士が抱く言葉の困難さの実態調査-保育園看護職に期待する役割を中心に-	保育と保健	2012	18巻2号	Page57-60
31	阿部 真由美	我が園で体験した感染症について	あきた小児保健	2012	48号	Page12-13
32	沼野 みえ子	子どもの保健に関して保育者に求められること 新潟市内保育所・幼稚園の実態調査から	人間生活学研究	2011	2号	Page23-33
33	Sakou Keiko, Akuzawa Chieko, Aoyagi Chiharu, etc	保育園勤務の看護職者の役割に関する研究の傾向 (Trend of Research on Role of Nurses Working in Nursery Schools) (英語)	The Kitakanto Medical Journal	2011	61巻3号	Page387-394
34	黒田 みどり	家族支援 CSの実践から得た保育園における家族支援 子ども達の心に心地よくそよ風になるため	FOUR WINDS 乳幼児精神保健学会誌	2011	4巻	Page67-68
35	日本保育園保健協議会編集委員会	保育園における医療的ケアが必要な子どもへの対応	保育と保健	2011	17巻2号	Page97-98
36	長尾 史英, 柄澤 邦江, 塩原 智子, 他	看護職未配置保育所における保健業務の遂行状況と必要性の認識	小児保健研究	2011	70巻4号	Page529-534
37	脇坂 幸子, 神澤 絢子, 塩原 智子, 他	保育所に勤務する看護職の業務の現状と役割受容度の検討	日本看護学会論文集:小児看護	2011	41号	Page108-111
38	脇坂 幸子, 神澤 絢子, 塩原 智子	保育所に勤務する看護職の業務の現状	飯田女子短期大学紀要	2011	28巻	Page71-76
39	吉川 慶子	保育園でできる健康支援と看護職の役割	保育と保健	2011	17巻1号	Page87
40	鈴木 久美, 宮崎 博子, 羽室 俊子	保育中のけがや体調不良児への看護職の対応調査	保育と保健	2011	17巻1号	Page86
41	藤城 富美子, 宮崎 博子, 国分 麻紀, 他	保育所の人的環境としての看護職配置状況と役割 慢性疾患児と感染症対策への課題	保育と保健	2011	17巻1号	Page85-86
42	宮崎 博子, 藤城 富美子, 国分 麻紀, 他	保育所の人的環境としての看護職配置状況と役割 看護職の雇用形態による保健活動への意識, 担当状況の違い	保育と保健	2011	17巻1号	Page84-85
43	小原 佳子, 佐藤 美鈴, 佐藤 博子, 他	保育園における歯科保健活動の現状	保育と保健	2011	17巻1号	Page83
44	常藤 幸枝, 木村 千枝, 桐山 千世子, 他	保育現場における看護職の役割 保育園内における新型インフルエンザの発生と対策	保育と保健	2011	17巻1号	Page73
45	正田 梨花, 喜多 淳子, 工藤 貴子	病児保育における質的な改善策の提案に向けた文献検討	大阪市立大学看護学雑誌	2011	7巻	Page55-63
46	伊藤 暁, 廣瀬 幸美, 永田 真弓	保育所における低出生体重児の保育上の困難と対応	日本新生児看護学会講演集	2010	20巻	Page103
47	小松 みち子	こしょの保育園における感染予防及び健康教育	あきた小児保健	2010	46号	Page16-18
48	塩原 智子, 長尾 史英, 脇坂 幸子, 他	長野県の保育所に勤務する看護職の現状	飯田女子短期大学紀要	2010	27号	Page84-85
49	荒木 田美香子, 佐藤 潤, 臺 有桂, 他	幼児を持つ母親の幼稚園および保育所の選択条件に関する調査 看護職・養護教諭の配置の影響	小児保健研究	2010	69巻4号	Page525-533
50	信川 鈴鹿	健康障害をもつ子どもを地域で支えるために必要とする看護情報 保育所看護職の必要とする情報	小児看護	2010	33巻4号	Page504-508
51	植村 智子, 斗ヶ澤 淳子	保育園における看護職の役割について	保育と保健	2010	16巻1号	Page139-140
52	木村 留美子, 藤城 富美子, 宮崎 博子, 他	保育園看護職者に関する研究(その2) 配置園園長の調査より	保育と保健	2010	16巻1号	Page139
53	木村 留美子, 藤城 富美子, 宮崎 博子, 他	保育園看護職者に関する研究(その1) 未配置園の園長に対する調査より	保育と保健	2010	16巻1号	Page138
54	宮崎 博子, 小沢 恭子, 羽室 俊子, 他	保育中の体調不良児への看護職の対応	保育と保健	2010	16巻1号	Page114
55	高橋 尚子, 小綿 悦子, 落合 智恵子, 他	国に届け現場の声!看護士の立場から「保育園における看護職の実態」と「保護者から見た保育園看護職」とは	保育と保健	2010	16巻1号	Page97-99
56	並木 由美江	個々の子どもの健康状態と回復期を集団としてどうするか	保育と保健	2010	16巻1号	Page45-48
57	矢野 智恵, 片岡 亜沙美, 山崎 美恵子	乳幼児の健康支援への保育所看護職者の「思い」に関する研究	高知学園短期大学紀要	2010	40号	Page33-43
58	佐藤 潤, 荒木 田美香子, 綾部 明江, 他	看護職等の配置が母親の幼児通園施設(保育園・幼稚園)の選好条件に影響を与えるか?	日本公衆衛生学会総会抄録集	2009	68回	Page210
59	荒木 田美香子, 佐藤 潤, 綾部 明江, 他	幼児通園施設(保育園・幼稚園)の母親への健康情報提供機能に関する検討	日本公衆衛生学会総会抄録集	2009	68回	Page210
60	角谷 弘子	看護職の役割と保育園の連携	保育と保健	2009	15巻2号	Page30-32
61	村上 慶子, 西垣 佳織, 上別府 圭子	東京都23区内の保育所における保健活動と看護職の役割に関する実態調査	小児保健研究	2009	68巻3号	Page387-394

	研究者	タイトル	文献名	発表年	巻・号	ページ
62	阿保智子, 扇野綾子, 富澤志子	日市内における保育所での与薬の実態と保育士の認識 看護職者および与薬マニュアルの有無による比較	小児保健研究	2009	68巻3号	Page343-349
63	内田富喜子, 浅子春枝, 飯田佳世, 他	保育園における看護職の役割 看護職業務アンケート結果から	保育と保健	2009	15巻1号	Page106-107
64	有木信子, 木村千枝, 桐山千世子, 他	保育現場における看護師の役割 病児保育を实践して(二次抄録)	保育と保健	2009	15巻1号	Page105
65	井口幸子	健やかな毎日の保育保健 看護職の立場から	保育と保健	2009	15巻1号	Page82
66	宮城由美子, 大田恵子, 中山慶子, 他	保育園における健康保育に対する保護者のニーズ	保育と保健	2009	15巻1号	Page43-49
67	鈴木光一, 松尾康滋, 矢嶋久徳	保育所に通所する二分脊椎児に対する訪問看護による導尿 公的補助が実現した1例	日本小児泌尿器科学会雑誌	2008	16巻2号	Page234-236
68	北澤清美	地域でのチームアプローチ 保育園での保育士と看護師との連携 相互の専門性の向上と「保育保健」の確立をめざして	小児看護	2008	31巻9号	Page1245-1254
69	藤城富美子	育児の環境整備 保育園と幼稚園の一元化 認定子ども園を考える 保育園看護職の健康支援	小児保健研究	2008	67巻2号	Page236-241
70	須藤佐知子, 鈴木久美	東京都私立保育園看護職の業務実態調査	保育と保健	2008	14巻1号	Page50-56
71	有木信子, 桐山千世子, 前橋明	保育現場における看護師の役割 (2)	保育と保健	2008	14巻1号	Page142
72	二宮球美	乳幼児の成長発達における施設での看護職者の協働	日本看護研究学会雑誌	2007	30巻3号	Page139
73	石川麻衣	公立保育所の看護職が行う予防活動の特徴	日本公衆衛生学会総会抄録集	2005	64回	Page662
74	川上葵, 國方弘子	中国地方の保育園で勤務する看護職の意識	日本看護学会論文集: 地域看護	2007	37号	Page222-224
75	佐藤親可	保育所の保健活動における看護職の専門性の追求	神奈川県立保健福祉大学実践教育センター看護教育研究集録	2007	32号	Page231-238
76	出野慶子, 大木伸子, 小泉麗, 他	慢性疾患をもつ幼児の集団生活における支援 保育園勤務の看護師への質問紙調査より	小児保健研究	2007	66巻2号	Page346-351
77	稲毛映子	福島県内の保育施設における看護職の現状に関する調査 期待される役割に関する一考察	福島県立医科大学看護学部紀要	2007	9号	Page25-40
78	市六輝美	尿路変更及び順行性洗腸法を受けた幼児への排泄の自立に対する援助 地域における看護職間の連携	日本小児看護学会誌	2007	16巻1号	Page47-52
79	有木信子, 木村千枝, 桐山千世子, 他	保育現場における看護師の役割 子どもの生活リズム確立に向けて	保育と保健	2007	31巻1号	Page90
80	湯原富子, 七木田方美	保健指導を保育活動にうまく組み入れるための工夫	保育と保健	2007	31巻1号	Page89
81	須藤佐知子, 鈴木久美, 富田緑子, 他	保育園看護職の業務実態調査 アンケート結果より	保育と保健	2007	31巻1号	Page87-88
82	木村留美子, 棚町祐子, 田中沙季子, 他	保育園看護職者の役割に関する実態調査(第1報) 保育園看護職者の役割遂行状況と看護職者に対する保育士・保護者の認識	小児保健研究	2006	65巻5号	Page643-649
83	稲毛映子	福島県内保育施設における看護職に関する調査	東北公衆衛生学会誌	2006	55号	Page49
84	二宮球美	施設における乳幼児の成長発達への看護教員の役割 保育所の事例を通して	日本看護福祉学会誌	2006	12巻1号	Page58-59
85	藤城富美子	健康安全講座 保育園保健業務の活動領域について	保育と保健	2006	12巻2号	Page61-62
86	鈴木光一, 松尾康滋, 矢嶋久徳	保育所に通所する二分脊椎児に対する訪問看護による導尿・公的補助が実現した1例	日本小児泌尿器科学会雑誌	2006	15巻1号	Page55
87	二宮球美	保育におけるケアと支援 K県保育所・幼稚園における与薬の実態	日本看護研究学会雑誌	2006	29巻3号	Page280
88	伊藤律子	盛岡市の保育園での与薬について アンケート調査報告	保育と保健	2006	12巻1号	Page98-99
89	井口幸子	保育園看護職の活動の実態とこれから 看護職配置なき園への広域・支援体制へ	保育と保健	2006	12巻1号	Page92-93
90	勝又すみれ	家庭と保育園における気になる子どもの問題 その理解と対応 看護師の立場から	保育と保健	2006	12巻1号	Page81-82
91	中川さとの, 桂敏樹	病児保育に関する現状と課題 保育所職員の意識調査	小児保健研究	2005	64巻1号	Page54-57
92	鈴木久美	保育園児のリスクマネージメント 睡眠を通して考える	保育と保健	2005	11巻1号	Page99-100
93	小野寺芳子, 坂本尚代, 飯盛順子	大阪府保育所保健連絡協議会の30年の歩み	保育と保健	2005	11巻1号	Page95
94	権田緑	保育・保健の連携について 看護師の思い	保育と保健	2005	11巻1号	Page89
95	佐藤敏子	「人間関係の悩み」相談室 居場所を奪う職場、前任者やうつ病で退職… 保育園に勤務する保健師さんの悩み	こころケア	2003	6巻4号	Page92-96
96	荒木暎子, 遠藤巴子, 羽室俊子, 他	岩手県の保育園保健の実態と看護職の役割	岩手県立大学看護学部紀要	2003	5巻	Page47-55
97	金泉志保美, 中下富子, 矢島まさえ, 他	病児保育室における看護の特徴とその看護援助の方法	群馬パース学園短期大学紀要	2003	5巻1号	Page87-97
98	中村喜美子	保育所保健における保育士と看護職の役割について 文献的考察	保育と保健	2003	9巻2号	Page25-28
99	百田理香, 本永直美, 仲村美喜子, 他	耳鼻咽喉科診療所からの看護支援 保育園訪問の試み	日本看護学会論文集: 地域看護	2001	31号	Page98-100
100	岡本佐智子, 梅澤祥子	埼玉県保育所における保健職に関する実態調査	日本健康教育学会誌	2000	7巻1~2	Page11-18
101	野口純子	看護職の子育て支援に関する研究 香川県における保育との連携に関する調査	香川県立医療短期大学紀要	2002	3巻	Page157-165
102	深田美香, 南前恵子, 笠置綱清	育児支援としての病児保育のあり方と看護の役割に関する検討 松江市における調査結果の分析より	米子医学雑誌	2001	52巻3~4	Page183-195
103	田邊ますみ	病児保育所における看護と保育の関わり	小児保健研究	2001	60巻2号	Page252
104	田中加代子, 今村初美, 大野敦士, 他	保育所に子供を預けて働く母親が保育所看護婦に望むこと	福岡県立看護専門学校看護研究論文集	2000	23巻	Page73-82
105	納富隆子	確かな健康観を目指す幼稚園・保育園における歯科保健活動 保育園での歯科保健指導事業における看護婦としてのかわり方	日本学校歯科医学会誌	1997	76号	Page63-68
106	松元ツムミ, 小林佳世, 森田晴子	患児ケアに必要な知識 退院後の日常生活への援助: 保育所での日常生活援助 乳児脊髄性筋萎縮症児を受け入れて	小児看護	1998	21巻10号	Page1333-1337
107	湯目礼子	保育園における看護職の活動の実態と役割意識 神奈川県下のアンケート調査から	神奈川県立看護教育大学校看護教育研究集録	1998	23号	Page448-455
108	奥山朝子	保育所における看護職導入に関する意識調査	小児保健研究	1998	57巻2号	Page175
109	的場定美	ぎょう虫感染予防から保育園での環境整備を考える	小児保健研究	1998	57巻2号	Page174
110	遠藤幸子	保育園児を持つ家庭に対する育児支援のあり方について(第2報) 保育所看護職の意識	小児保健研究	1998	57巻2号	Page184
111	内田富喜子	保育園児の予防接種状況と罹患状況の関連	小児保健研究	1997	57巻2号	Page322
112	高岡久美子	大田区立保育園の感染症罹患状況	小児保健研究	1995	57巻2号	Page184
113	安達郷子	保育園における歯科保健の現状報告(2) 保育園における歯科保健指導と虫歯について	小児保健研究	1993	57巻2号	Page235
114	高岡久美子	保育園医療職の実態	小児保健研究	1993	57巻2号	Page127
115	木村明子	健康観察の効果(第2報)	小児保健研究	1993	57巻2号	Page127
116	中井秀子	病気とともに生活している小児の看護 関連諸機関との連携 保育園の看護婦の立場から	小児看護	1992	15巻2号	Page1570-1576
117	全国保育園保健婦看護婦連絡会	保育園における定期健康診断の現状	小児保健研究	1992	51巻2号	Page304
118	門脇世紀代	全国の保育園における保育活動(パート) 保健職の置かれている立場と保健活動の実態報告	小児保健研究	1991	50巻2号	Page286
119	大久保清子	保育園における看護婦の役割	小児保健研究	1991	50巻2号	Page286
120	板倉増子	保育園医療職マニュアルづくり	小児保健研究	1991	50巻2号	Page286
121	石井享子	保育園における看護婦の業務・役割に関する研究	小児保健研究	1990	49巻2号	Page227
122	波川京子	保育園も保健婦の領域に 全国保育園保健婦・看護婦連絡会発表される保健婦雑誌	保健婦雑誌	1990	46巻6号	Page518-521
123	佐々木礼子	保育現場での看護 乳児保育・障害児保育を通して	看護実践の科学	1989	14巻10号	Page93-95
124	東川泰之, 田上美恵子, 小菅照美	保育園における「発熱」に関する調査(2) 保育園看護婦に対するアンケート調査から	学校保健研究	1984	26巻9号	Page442-446
125	木村明子	公立保育園における子どもの健康実態とそれに対応	小児保健研究	1984	43巻2号	Page222
126	飯田澄美子	保育園における看護婦の執務的内容に関する研究	小児保健研究	1983	42巻1号	Page61